



# 高田本山だより

御影堂ご建立の陰に

## 堯朝上人の殉難

常磐井和子

今から三百五十年程前のこと、時のご法主十五世堯朝上人は、たびたび幕府からの呼び出しをうけて江戸へ参向しておられました。実は上人の父堯秀上人は、三年程前朝廷から大僧正の位を頂いたのですが、その際幕府の十分な諒解を得ていなかったというお咎めの件だったのです。



十五世堯朝上人

その謝罪や申し開きだけでも大変な災難が起きました。本山高田山専修寺の伽藍が、一身田の大火ですべて焼けてしまったのです。正保二年一月二十三日のことでした。そんな専修寺の苦境にもかかわらず、幕府の堯朝上人に対する追及は続きました。

翌正保三年やはり幕府の命で江戸に滞在中だった堯朝上人の動静は、幕府の記録に、六月の末帰郷の許可がおりたことを記しているのが最後でした。ところがその二月あと、八月二十二日に、上人は逗留先の浅草唯念寺で自刃して、三十二歳の余りにも短い命を散らされたのです。一山の門跡、高僧が切腹して果てられるなどは、想像も及ばぬ事、しかも幕府に関わりのある事件に違いないのですから、このことは厳しく秘密にされました。高田の宗門内に、その後も永く、堯朝上人を悼む言葉が囁かれ続けただけでした。

高田の古老たちの伝えは、幕府は、高田山の至宝、御開山聖人のご真筆類を、大僧正任官の際の小さな不手際を口実にして、召し上げようとしていたのだと指摘しています。その推測は当たっていると思います。その頃権力を遮るものもない幕府は、多くの寺社名家の宝物を、思うさまに取り上げて、部下などへの恩賞にあてていたのです。幕府の権威に屈して大概の人が、その難題に従う中、堯朝上人だけは違いました。命に代えて、聖人のみ教えを伝える法宝物をお護りになったのです。

こうして専修寺代々の至宝は護られました。しかし本山は当主の堯朝上人亡きあと、高齡の前住堯秀上人と薙髪された裏方高松院様が、諸堂が灰燼に帰した中、悲しみを乗り越えて布教に寺務にと身を捧げておられたのです。跡継ぎのご門跡を一日も早く迎えたい、何よりも御影堂の復興をというのが、深い痛手を負った門末の叫びでした。とても実現の遠い夢でした。

しかし思いがけなく將軍家光を始めとして幕府の重臣たちが、積極的に動いて、専修寺の次の法主を決めてくれました。後の第十六世堯円上人がその方で、堯朝上人の悲運を晴らすかのように、専修寺を立派に復興されました。また高松院様の兄藤堂高次公の土地寄進によって境内地は倍増しました。いよいよ御影堂の建築が始まると、藤堂藩は全力の寄与を惜しみませんでした。建築の責任を、幕府の棟梁坂本三左衛門も負っているそうですから、ここにも幕府の厚意が及んでいたと察せられます。

近く素屋根が外されると、久しぶりに仰げる、豪華華麗な専修寺御影堂は、私どもの宗門の力を超えた大きな遺産です。専修寺の歴史上最大の危機を乗り越えて、どうしてこんなすばらしい御影堂が建立し得たのでしょうか。ある時將軍家光がふと洩らしたそうです。「専修寺の堯朝にはすまないことをした」と。堯朝上人の尊い殉難は、將軍や、その側近、藤堂藩、高田の門末さらに同時代の多くの人々の心に、強く訴えるものがありました。その感動が力となって、御影堂ご建立の悲願が成就したのでした。何も語ることなく重責に殉じていかれた堯朝上人への御礼は、この御堂にお念仏の音が満ち満ちることだと思えます。

合掌

発行所  
真宗高田派宗務院内  
三重県津市一身田町2819  
電話 059-232-4171  
FAX 059-232-1414  
HP  
www.senju.or.jp  
発行部数  
33,000部

本山境内の東入口になっているこの門は、普通の長屋門の屋根の上に、三重の櫓を載せているので、みなさんに親しまれています。

ところで、この最上階に大太鼓が吊ってあって、江戸時代にはこれを打ち鳴らして、町の人びとに時刻を知らせていたことをご存じでしょうか。正午には九つ、午後二時には八つ、というように、二時間ごとに太鼓を打って時を知らせたのです。太鼓を打つ人は「時の番」といわれ、この長屋に住んでいて、部屋の中から梯子を登って、太鼓を打ちました。最初はこの門が建てられたのは、江戸初期、十七世紀半ばで、今も残る古い大太鼓の胴には、享保十四年（一七二九年）の墨書銘があります。またそのころ、時の番をつとめた老人が、四十年間勤続したというので、法主様からご褒美をいただいた、という記録もあります。

今の太鼓門が建てられたのは文久元年（一八六一）で、このときそれまで一重だった櫓を、高い三重櫓にしました。「おかげで太鼓の音がよく聞こえるようになった」と、一

# 津市文化財に新指定の太鼓門

平松 令三



身田町西町、武野家の古記録に記されています。

これらのことが判明しましたので、このほど津市の文化財として指定せられました。ただ少し西へ傾いて危険なので、門の通行を止め、取り敢えずの耐震補強工事が施されました。いづれ親鸞七百五十年御遠忌法要までには、全面解体修理が行われることでしょう。

## こぼれ話

御廟（宗祖親鸞聖人のお墓）から納骨堂に向かう参道の横に池があります。池には二十匹程の鯉が泳いでいます。ほとんどは鯉を育てているご住職が、ご好意で本山にお持ちいただいたものですが一匹だけ変わった経緯でここに来た鯉がいます。

亡くなられたおばあさんの納骨に來られたご家族が、池の鯉を見て「おばあさんがずっと育てていた鯉を、私が世話をしているのですが、大きな鯉を我が家の水槽で飼っているのでは狭くて可哀想だと思っ

御本山御用達

# 鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）  
電話 (075)371-0854・8181~2番  
FAX (075)344-2701番  
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

京仏壇京仏具・ご本堂内装  
お仏具ご修復・お納骨壇



高田本山御用達

京仏具

# 小堀

本店/京都市下京区烏丸通正面東上 ☎(075)341-4121(代)  
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房・滋賀工場

無料進呈！ お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」

お申し込みはこちらから フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595

「不退の位すみやかに・・・」の  
和讃でおなじみの龍樹菩薩とは、  
どんなお方であったか。尋ねてみましょう。

# Q&A

## 龍樹菩薩

**龍** 樹菩薩とは、インド名をナガールジュナと言ひ、南インドのバラモン階級の家に生まれました。

小さい頃から頭が良く、天文、地理、道術を体得。医学、薬学にも造詣が深く、錬金術師、占星術師としても有名であったそうですが、目の前で友人が惨殺された事件が契機となり、仏道を求められるようになったとのこと。

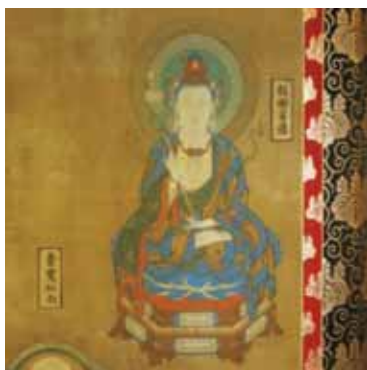
はじめ、上座仏教を学びましたが、やがて、大乘仏教に傾倒、彼の卓越した知識と理論は、以後の仏教に絶大な影響を与え、大乘中観派（ちゅうがんは）の開祖、大乘仏教の大成者、第二の釈迦、日本では八宗の祖と讃えられています。

その理論とは、すべての存在は無自性であり、それによって「空」であると論証。つまり、目に見えるものは、真に存在するものとは言えず、現象にすぎないと言う、大乘仏教の核心をなす「空」の思想を展開、多くの論争をして、例えば、靈魂が死後もあるとか無いとか言う等、物事を固定的に考える「有無の邪見」悉く破って中道を説きました。

その心は、釈尊に帰れという運動から出発したのでしたが、論理の拠り所を釈尊から法へと移行して『中論』や『大智度論』等を著し、理論化、体系化しました。このことは平易が特色でもあった初期大乘を、難解なものにしてしまったとも言えます。

しかし、他学派と争った論理家であると同時に、中観派という名前が示すように、「中道」を自らの行として励む実践修行の人でもあった龍樹菩薩は、『十住毘婆沙論』等著し、浄土の往生が、たんなる往生に止まらず正覚への道であることを論証し、覚りを信によって体得する、念仏の道を易行道として勧められました。

親鸞聖人が、真宗の教証を説かれた七高僧の第一祖と敬われたことは意味深いことです。



ていたのです。この池なら広いし仲間も多くて鯉の為にいいのじゃないかと思うのです。ここに放してもいいですか。」とお願ひされました。ご家族は「家で飼っている時、おばあさんの鯉はとても大きいと思っていたのにこの池に入ったら普通の大きさですね。」と少しさびしそうに話しておられました。本山にお越しの際、時間がありましたら、この鯉を探してみたいかがですか。



お墓

寺標

墓地移転

霊園開発造成

高田本山御用達  
石匠位認定店  
全国優良石材店、認定店

創業100余年

ISHIEN STONES 株式会社 石仙

(旧(有)山本石材店)

四日市市近鉄阿倉川駅前

☎0593-31-4114

サイコーコイイン

高田本山 御用達

株式会社

井筒法衣店

本店 京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)

電話 (075)351-1234代

フリーダイヤル 0120-075-720

# ご和讃のお話

芳川 賢史

決定の信なきゆゑに

念相續せざるなり

念相續せざるゆゑ

決定の信をえざるなり

(曇鸞和尚第三十二首)



曇鸞和尚二十八首から三十  
二首までは、三不信をあらわ  
し誠められます。三不信とは  
三信の失われている私の心の  
姿です。

三信とはくりかえしますが、  
淳心・一心・相続心の三つを  
指します。飾り気なくおもわ  
くのないのが淳、つまりはか  
らいのない純粹な心です。そ  
して純一でただただ阿弥陀さ  
まをたのむという心が一心、  
余念まじえることなく淳心一  
心を継続する心が相続心です。  
先の御和讃には、「三信展転  
相成す」とあります。三つの  
心は本来一つのもので、淳心  
あるからこそ一心、一心ある

からこそ相続心、相続心ある  
からこそ淳心と、次々と繰り  
返しその面をあらわす互いに  
補い合う一つの心として阿弥  
陀さまは完成させ、三不信か  
ら抜け出せない私のためにお  
届け下さる眞実信心のお姿が  
三信なのです。

さてこの御和讃の「決定の信」  
は、浄土往生を決定せしめる  
信心、つまり阿弥陀さまより  
回向される眞実信心のことです。  
この信心により、私たちは、  
自力というはからいを離れ、  
ただ阿弥陀さまをたのみ、お  
届けいただいたお念仏一つを  
依りどころとして生活する心  
さきの三信のお姿が我が身に

あらわれ出てくださいます。

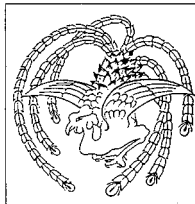
そしてこの決定の信は、私  
の上につねに口にでるお念仏  
として生活に現れ出てくれます。  
念相續の姿です。決定の信は、  
これを獲得できたら浄土往生  
が決まったのだからもうお終い、  
ただ一声お念仏を称えたらも  
うお終いというものではなく、  
ません。一声でいいのだから、  
もう称えないという心は、単  
なる浄土へ生まれさせてもら  
う代金のようにとらえている  
はからの心、身勝手な心です。  
ただ一声で救われる念仏なの  
だけれども、この一声で救わ  
れるお念仏というものが、た  
だただありがたく繰り返される、  
という相續されていくお念仏  
こそ決定の信であるわけです。  
この相續はただ漫然と続くの  
ではなく、念々に新しい決定  
の信として、この私の心に新  
鮮な喜びをもたらしてくれる  
ものなのです。

「日常」という言葉があり  
ます。国語辞典には「つねひ  
ごろ」とあります。「つね」  
つまり「いつもと変わらぬ」  
今日このごろといった意味です。  
しかし本当にいつもと変わら  
ない今日なのでしょいか。

ドイツの哲学者ハイデッガー

は、私たち人間は時間という

不可逆的な進行の中にある「死  
への存在」であるといいあら  
わしました。つまり後戻りで  
きない時間の中で死へと一瞬  
一瞬進んでいく存在というこ  
とです。ハイデッガーは、本  
来の自分は一瞬たりとも立ち  
止まることのない私であり、  
同じではあり得ない、つまり「非  
日常」の中にあるといいました。  
今朝目覚めたこの私は、「い  
つもと変わらぬ」この私では  
ありません。昨日までの私とま  
たく違う私ではありませんが、  
今朝は、地球が生まれてから  
初めて迎えた朝であり、私も  
誰も経験したことのない一日  
の始まりなのです。この私は  
まさに今日という特別な日を  
生かされる初めて生まれた私  
です。過去にも、未来にも今  
日と同じこの日は決してあり  
ません。また当たり前に迎え  
られた今朝ではないはずで  
す。この身体、「いのち」がはた  
らいてくれたこそ迎えられた  
今朝です。この今日という日  
を初めて迎えられたことに喜  
びを見いだせず、同じ一日と  
過ごすことほどもつたない  
ことはありません。「日常」  
と思う心は、大切なものを見失っ



仏壇・仏具

## ぬし与

ホーオーが目印！

### 六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・鈴鹿店・蟹江店・大安店・阿下喜店



達 御用 達  
三 重 県 仏 教 会 御 推 薦

石 碑  
記 念 碑  
燈 籠



高級御影石専門店

## 御影石材株

(石に御用の方は) インニョコオ  
☎0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前)  
☎059-224-1700(代)

ていると思いませんか。

今日というこの日を昨日と同じ一日と過ごすのではなく、この私にまた新たな「いのち」をいただく喜ばしい特別な日と迎えるべきです。それはちょうど相続されながら、それについてつねにあたらしい喜びをもたらししてくれるお念仏と重なり合います。このお念仏喜ぶときにさしこむ、無明長夜の闇を破る暁の光こそが、私を「今日という特別な日」に喜びを持って目覚めさせてくれる阿弥陀さまの尽十方の無碍光なのです。

(津市北丸之内 報恩寺住職)

清掃奉仕ありがとうございました。

汗を流して清掃奉仕

3月 福萬寺 清光寺

善照寺 青蓮寺 来教寺

誓信寺 真善寺

4月 西生寺 西願寺

浄國寺 浄福寺 海善寺

真念寺 光善寺

5月 安性寺 光輪寺

玉泉寺 深廣寺 一乗寺

法雲寺 迎接寺

以上二十一カ寺のみなさんでした。ありがとうございます。

歡喜會の話

お盆をむかえるにあたって

谷口光進

お盆が近づいてきました。お盆には、亡くなった先祖がこの世に帰ってくるといわれます。地方によつて七月と八月の違いはありますが、全国的に営まれる仏事として一般に広く定着しています。特に八月になると「お盆休み」となることから、家を離れていた方々が父母のいます故郷へ帰るため、交通機関が大混雑します。ふるさとへ帰ったら単なる骨休みだけでなく、家族揃つてお寺に、お墓に参ることが大切です。

お盆の法要「盂蘭盆会」は十五日であるといわれていますが、十三日にご先祖が戻ってきて、十六日にあの世へ帰つていく。その間に僧侶に読経してもらおう。それで安心、先祖の方がたもさぞ喜んでくれるであろうと思つて安心する人が多いようです。しかし、本当にそれでよいのでしうか。ご先祖は喜ぶのでしょうか。「一年に数日だけ先祖を迎え、供養し、送り出し、安心する」これは単なる自己に満足ではないでしょうか。先祖の送迎は必要でしょうか。

真宗の教えは、十方衆生（生きるものすべて）をお念仏一つで必ず救うという阿弥陀如来の願いをご縁として、私自身が救われていくことこそ、迷いを解決する道なのです。

この阿弥陀如来のご恩感謝にその徳を讃えるのが、真宗の仏事であり、お盆なのです。亡き人を追慕し、そのご恩を偲ぶことは尊い心と言えます。だから先祖を迎え供養する日ではありません。この私先祖の方々をご縁として仏法に出遇い、救われていくことをよろこびあう日としたいのです。

真宗では、お盆のことを「歡喜會」といいます。この歡喜

歴史まるごと

体験塾

七月二十一日

二十三日

小学五、六年生を対象に、津市の文化課と協力して本山山内及び寺内町を会場に行われる行事です。山内の食堂(じきどう)に宿泊していろいろな体験をして頂く事です。



よ せの中 安穏なれ 仏法 ひろまれ

ごほんざんえどころ

御本山絵所

えどころがしら やすかわ にょふう

絵所頭 安川如風 よりご挨拶

昨年4月に御本山に創設されました絵所の「絵所頭」を拝命いただきました、安川如風と申します。本山御用絵師として、一層の努力を重ねていく所存です。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

〒514-0114 三重県津市一身田町2819 TEL:059-232-4171 FAX:059-232-1414 (本山宗務院内 絵所)



## リレー法話

## 仏教と人権

三重十八組上品寺衆徒 新野和暢

「『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議」（通称同宗連）という、宗教団体六十五教団、三協賛団体で構成される組織があります。文字通り宗教教団が『同和問題』に取り組もうという組織です。

さて『同和問題』とは、生まれ、血筋などといった不条理な理由による差別行為からの「人間回復」の問題です。ではなぜ、仏教が人権問題に取り組もうというのでしょうか？  
そもそも、仏教はインドカースト制度（世襲の階級制度）への抵抗という側面を持っています。釈尊は、

「血統を誇り、財産を誇り、また氏姓を誇っていて、しかも己が親戚を軽蔑する人がいる——これは破滅への門である」

（スッタニパータ一〇四）  
と、とりわけ「生まれ」「血筋」

で人間の優劣を決めようとするあり方を厳しく批判しておられます。ここに仏教における平等観を見て取れる訳です。しかもそれは、差別を表面的に解決しようとする「対症療法」ではなく、根本的解決を目指すという姿勢です。

しかしながら、この平等観を私の現実置き換えた時、そう簡単にはいかないものです。むしろ、差別はダメだと思っ

ていても、自分が差別者になることが多いのが現実ではないでしょうか。親鸞聖人の御言葉に、  
「浄土真宗に帰すれども  
真実の信はありがたし  
虚仮不実のこの身に  
清浄の心もさらになし」

（愚禿悲嘆述懐）  
と、自らの虚仮不官生への悲嘆があります。それは、浄土

真宗に帰したからこそ、清浄の心を持ってないという自己批判です。この言葉にいつも私は、「ドキッ」とさせられます。

例えば、とある差別行為を指摘されたとき、すると、相手の話を聞く前に、「認めたくない」という思いが働き、「差別していい」と相手に言い聞かせようとします。挙げ句の果てには、「悪気は無かった」と、開き直ってしまいます。ここに差別の上塗りがなされる訳ですが、親鸞聖人は、まさに、こんな私に問いかけているのです。仏教を通じた人権を知っている（浄土真宗に帰している）つもりなのに「清浄の心もさらになし」と。

ここに、単なる改善主義に終わらない「仏教の平等観」が実践として試されているのではないのでしょうか。

# 『仏説孟蘭盆経』のお話

お釈迦さまの弟子に神通（超能力）第一といわれる目蓮尊者がいました。ある時、目蓮は神通力を使って亡くなった母を尋ねました。母は意外にも「餓鬼道」におちていました。生前はきれいな母だったのに、食べ物がないので、骨と皮だけの、みるも無残な姿でした。目蓮は、さっそく食べ物や水を差し上げましたが、すべて口のところで火に変わってしまい口に入りませんでした。そこで、目蓮は、お釈迦さまに母の救いを願い出しました。お釈迦さまは「このお盆の時期に欲を捨てて衆僧にご馳走

をふるまいなさい。この布施の行が純粹なら功德は大変大きく母は必ず救われる」と諭されました。目蓮は言われるとおり的心で布施をしたので、やっと母は、お浄土に生まれかわることができました。目蓮は大喜びして、お釈迦さまにお礼を申し上げると、「目蓮よ、母を欲深い心にしたのはあなたです。母親は子どもを一人前に育てるには我が子かわいさで餓鬼道に落ちるほどの欲深になるのです。」と話されました。そして心を清浄にして布施を行ずることの大切さを説かれました。

## 赤色赤光 白色白光

本山に大きな鉢がたくさん並んでいます。この鉢は関東別院の山中俊之輪番が、「暑い時期に本山へご参詣いただいた方が、蓮の花が咲いているのを見て、ほっとして喜んで頂けたらうれしい。」と昨年から届けてもらったものです。

約五十鉢、二十数種類の蓮が植わっており、中には非常に珍しい種類の物も含まれています。夏を迎えて早くもいくつかの花が咲き始めました。泥の中で育ちながら美しい花を咲かせる蓮は、経典の中にも登場します。美しい花で心和むひとときをお過ごし下さい。



### 今年入った職員を紹介します



納骨堂勤務の久世 宜範さん



財務課勤務の藤澤 周慈さん

本山で見かけたら暖かく応援をしてあげてください。

### 稻城選惠著

## 人生晩年の随想

つれづれの感想、五濁悪世、仏教と平和、人間は人間である、中学生の宗教心等さまざまな社会問題、国際問題が生起、その随想を語る 定価945円税込

### 大田利生著

## 香りを聞く

香りを聞き・光に遇う、菩薩のころ・凡夫のころ、一つの言葉に思う、親鸞聖人のころを学ぶ、経典の学び方等心にふれる法話 定価1260円税込

### 杉本正信著

## 捨ててこそ

—今なぜ在家仏教なのか— 祈禱呪術や祖霊祭祀などの民俗宗教に占領せられてしまっている高野山真言宗の僧籍を返上し、寺の住職を辞し、阿弥陀仏の本願念仏を撰びとった心の軌跡・その道程 定価2415円税込

## 仏と人 35

無名会同人編  
平成の鬼の夜話 太田信隆／不戦の像 森 正隆／他力不思議 梯 實圓／まだ娑婆か 高田慈昭／最後の言葉 足利孝之／足を知らぬということ 源 義春／夜まわりもしなはれや 南部松雄 定価410円税込

### 梶濱亮俊訳

## チベットの民話

—中央チベット地方の民話集— 定価3990円税込

600-8342 京都市下京区花屋町西洞院西入  
永田文昌堂

電話 075-3371-6651  
FAX 075-3351-9031  
振替 01020049336

これからの本山諸行事

八月

◆第七十九回法文化講座

一日：五日午前九時より開講  
(但し初日は九時半より開講式)  
高田派第二十二世堯猷上人が大正十五年に開設された高田派最大規模の教学行事です。法主殿の御親教をはじめ、各方面から様々なご講師をお招きして五日間にわたる講義が続きます。聴講無料。

一日：「御親教」法主殿

二日：「インド大乘仏教から浄土真宗へ一貫する根本真理について」大谷大学教授・京都大学名誉教授 荒牧典俊先生

三日：「近代日本と真宗」龍谷大学文学部教授 赤松徹真先生

四日：「いのちへの新たなまなざし」(財)茨城カウンセリングセンター理事長 大須賀発蔵先生

五日：「顕智上人の五巻書、その二 真宗高田派鑑学」

愛知大学教授 稲垣舜岳先生



◆歓喜会

十四日、十六日

お盆の期間に勤まる法会です。仏縁によって救われることのお示しと、仏恩の尊さを喜ばせて頂くご縁として勤められます。毎日、朝七時と昼十一時半の二回、勤行とお説教が勤まります。



◆第四十一回高田派婦人連合大会

二十日

第二十二世堯猷上人のお裏方実明院様御正當お逮夜の日(八月二十一日)にそのお徳を偲びつつお念仏のご縁を広めようと始まりました。宗祖親鸞聖人と同じかぞえて九十歳になられた女性の方(大正五年生まれ)を祖師寿として表彰します。今年は例年より一日早く八月二十日に津市総合文化センターで開催されます。

◆現代と仏法を考える集い

三十日(午後一時開会)

大学院が開催する、広く現代と仏法について考える集いです。今年「わ」をキーワードにして討論

会形式で行われます。「わ」とは、和、輪、環、倭、我、話・等あげられます。「わ」という音の日本語においての意味合いと、仏教との関わりなどを考えようと思えます。多くの参加者をお待ちしています。聴講無料。

九月

◆法話発表会

九日(十時より)

初めて法話を経験する人から、お説教師さんとして長く活動されてきた大ベテランの人まで、十五分という短い時間の中、同じ会場で法話を発表する集まりです。法話発表する僧侶にとっては、多くの聴聞者の前で法話をする貴重な機会であるとともに、参加される人にとっても何名の方がされる法話を一度に聴聞できる機会でもあります。ご参加お待ちしております。聴講無料。

◆讃仏会

二十日、二十六日

高田派のお彼岸は、み仏のお徳を讃え、ご先祖の恩を謝し、法縁を喜ぶ仏徳讃嘆の法会であり讃仏会とよばれます。毎日、朝七時と昼十一時半の二回、勤行とお説教が勤まり、秋分の日(二十三日)には法主殿か法嗣殿の御親教がごぞいます。ぜひご参詣下さい。

本寺専修寺の行事

高田まち

顕智上人を偲ぶ「顕智まち」とも

呼ばれ毎年八月一日、専修寺境内は非常な賑わいを呈します。多くの屋台が店をならべ、夜になると最高潮となり十一時まで人出はひきまきりません。高田派の門徒だけでなくこの日は様々の宗派の人が本寺専修寺にお参りするものが恒例となっています。

編集後記

春秋の讃仏会、八月の歓喜会、一月の修正会等本山には多くの参詣者が訪れ、駐車する場所を探すのに苦労をするくらいです。しかし十一時半から勤まる法会のため如来堂に行くとき堂内には数えるくらいの人しか座っていません。勤行が終わってお説教が始まってもしつこうに人が増える気配はありません。境内ではこどもさんたちのにぎやかな声が響き渡り、納骨堂やお墓ではお念仏が途絶えない中で、本堂内の静けさは不思議な感覚を覚えます。私たちの広報不足が原因かなと反省し、これからは近くに本山で行われる法会を、紙上で紹介していこうと考えています。みなさんも本山に来られたらまず本堂にお参り下さい。また法会や法話に出遇うご縁を大切にして下さい。

寺院名

太鼓門修理中



境内東側の太鼓門の修理に取りかかれました。通行できない場合がありますのでご注意ください。

印刷のご用命は

オリエンタル印刷 株式会社

本社・工場 三重県安芸郡河芸町上野 2100

(059)245-3111(代)

FAX (059)245-1177